

## 令和元年度石川県交通安全対策会議議事録

### 1 開催日時

令和元年5月31日午後1時30分から午後2時30分までの間

### 2 開催場所

石川県庁行政庁舎11階 第1110会議室

### 3 出席者

- (1) 委員 4名
- (2) 代理出席 8名
- (3) その他 5名 計17名

### 4 対策会議における質疑

#### (1) 令和元年度石川県交通安全実施計画（案）について

○鷹中代理

各種交通安全教室の開催についてですが、比較するためにも過去の実績について教えていただけますか。

○課長回答

各種交通安全教室についてですが、生活安全課が開催している「いきいきシニアドライブ相談会」は、6回開催し、278人の参加者がありました。「幼児交通安全教室」は、136回、参加人数は10,632人であり、「高齢者交通安全教室」は52回、参加人数は1,452人となっています。

警察や教育委員会が開催している交通安全教室は、昨年度とほぼ同じ参加人員となっています。

### 5 金沢大学山岸教授意見

石川県内の交通事故は発生件数、負傷者数、死者数ともに減少傾向にあり、これは必要な対策を積み重ねてきた結果であり感謝いたします。

高齢者が事故に遭う割合が高い、歩行者の割合が高い、というのは毎年のように聞いておりましたが、それは全国的にも同様な傾向があると聞いておりますが、平成30年度交通安全白書を見ますと、欧米30ヶ国のデータが載っており、2016年のデータでは人口10万人当たりの交通事故死亡者数が日本は3.7人で、少ない方から見て7位となっています。前は10位くらいだったと思うので死亡者数が少なくなっているのがわかります。

ダントツに多いのがアメリカで11.6人、次いで韓国8.4人で、それに比べると人口10万人当たりの死亡者数が少ないのが分かります。

交通事故死者数の構成率を見ると、日本は歩行中が多くて35%となっています。他の国では一番多いのが車に乗っているときの「自動車乗用中」が多くて、過半数を占める国もある。日本は「自動車乗用中」が22%ということで、欧米30ヶ国では歩行者の事故が多いのが分かります。

他の国は、歩行者15%くらいなので、歩行者の事故が多いのが特徴的です。また、日本は自転車の事故が多いのも特徴です。

年齢で見ますと、ご想像のとおり、高齢者が多くて56%を占めています。他の国では「15～24歳」が多いので、日本では高齢者の交通事故死が多いのが分かります。日本では高齢化率が高いのですが、そのことを勘案しても高齢者が事故に遭うことが圧倒的に多い。

交通死亡事故に関して「歩行者」「高齢者」ということを、日本では当たり前のように報告を受けますが、データがある30ヶ国を見ただけでも特徴的・特異であることが分かります。

そのことを何故かと分析してみますと、はっきりとしたことは言えないのですが、体験的に感じることは「人優先」の意識が根本的に違うのではないかと思うのです。もちろん、日本も「人優先」ですが、ヨーロッパを歩いていて、人や車が密集しているところ、歩行者が歩道から車道へ出ようとすると車が止まってくれます。横断歩道ではもちろん、横断歩道がないところでも車が止まってくれます。

「人がいれば止まる」という意識が当たり前になれば、人が何処にいるのか、渡ろうとする人がいないかを常に気にしながら走ることになります。気を付けながらゆっくり走るしかないのです。前方不注視とか、スピードを出している、ということが出来なくなります。

日本では、車道で走っている車はスピードを出していますし、ショートカットをして生活道路に入っている車もスピードを出して走っています。そういったところを体験的に感じています。

死亡事故死者数を減らすためには、道路の整備も必要ですし、安全な自動車の開発も進めていくことも必要ですが、「人優先」の考え方を変えていかないと「高齢者」や「歩行者」の死亡事故を減らすことが最終的に出来ないと思うのです。時間はどれもかかりますが、色々なところコツコツやっていき、特に「人優先」の考えをもう一步踏み込んで変えていくと随分違ってくると思います。

また、金沢大学では自動運転の実験をやっていますし、まだ実用化されていない、軽四よりも小さい超小型車を実験的に走らせたりしています。新しいタイプの交通が出てくると、新たな違う問題も出てきます。

国が主導していかなければならないとは思いますが、超小型車や自動運転については安全性に不安がありますので、後手にならないようにしていただき、交通として浸透するまでに時間がかかるものがあれば、急に交通が増えて事故が増えることもあるので、いろんな面から考えていただくとありがたいと思います。